

科目 コード	33126	授業 科目	周産期保健看護 I (Perinatal Health Nursing I)			担当 教員	○ 玉城清子、井上松代、 西平朋子 賀数いづみ	
開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講義	
選択必修	必修	時間数	15時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	産む性を選択した女性の周産期に焦点をあて、正常な妊娠期の身体的変化、心理的变化、健康生活を促進する援助方法や周産期における健康状態の動向と対策について学習する。また、妊娠期の正常からの逸脱に関する病態生理や援助法についても学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期看護の目的、用いられる理論、母子保健統計等について説明できる。 2. 正常な妊婦の身体的変化、心理社会的変化について説明できる。 3. 正常な妊娠経過およびその過程にある人々の看護について説明できる。 							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習	担当者名	授業形態	
第1回	母性看護の基盤となる概念				1: 第1章	玉 城	講義	
第2回	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状				1: 第2章 ALOHA note	井 上	〃	
第3回	母性看護の対象理解				1: 第3章	玉 城	〃	
第4・5回	母性看護に必要な看護技術 妊娠期における看護				1: 第4章 2: 第2章	西 平 西 平	〃	
第6回	妊婦の診察法				ALOHA note 2: 第2章	玉城、賀数、 井上、西平	演習	
第7回	女性のライフサステージ各期における看護				1: 第5章	玉 城	講義	
第8回	リプロダクティブヘルスケア				1: 第6章	玉 城	講義	
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 森恵美. 2013. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学1 第13版. 医学書院. 2. 森恵美. 2013. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 第13版. 医学書院. 							
参考文献	国民衛生の動向, 母子保健の主なる統計							
他科目との 関連	周産期保健看護実習 I と関連する。							
成績評価 の方法	試験80%, ALOHA note10%, プレテスト10%							

学習相談・ 助言体制	Office Hour : 各講義終了後1時間
授業改善の 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ ALOHA noteを講義で活用する。 ・ 事例（場面）を提示しディスカッションを行いながら講義を行う。 ・ 講義内容を視覚で理解するために視聴覚教材・模型等を活用する。 ・ 学内実習は学生が主体的に参加し技術の修得ができるように2クラスに分けて行う。
備 考	事前学習としてテキストを読んで講義に望むこと。指定ペーのALOHA noteを実施（予習）して講義に臨むこと。毎回講義開始前にプレテストを行う。

科目 コード	33127	授業 科目	周産期保健看護Ⅱ (Perinatal Health NursingⅡ)			担当 教員	○賀数いづみ 井上松代 西平朋子 橋口幹夫 (非常勤) 源川隆一 (非常勤)	
開講年次	3年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講 義	
選択必修	必 修	時間数	30時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	産婦並びに褥婦・新生児に焦点をあて、分娩経過や産褥経過並びに新生児について異常も含めて学習する。また、褥婦については心理社会的特徴や新しい役割獲得についても学習する。							
到達目標	1. 正常分娩の臨床経過および産婦に必要な援助が説明できる。 2. 正常な経過をたどる褥婦や新生児について理解し、必要な援助が説明できる。 3. 産婦・褥婦の心理社会的特徴が説明できる。 4. ハイリスク妊産褥婦の病態・検査・診断・治療及び看護について説明できる。 5. 新生児に起こりやすい異常やハイリスク新生児の診断・治療及び看護について説明できる。							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習(学 習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	分娩期における看護				ゆいノート (事前) 1.第3章 1.第5章 1.付章 2.第3章 36 1.第4章 2.第4章 45・46 1.付章 1.第6章 2.第1章 7,10, 12, 第2章 27-34 第3章 37-43 3.P76-161, 216-283, 314-322 1.第6章 2.第4章 2 3.P326-335	賀 数	講 義	
第2回	産褥期における看護							
第3回	母乳育児と看護					井 上		
第4回	褥婦の看護過程					”		
第5回	新生児期における看護					西 平		
第6回	新生児の看護過程					”		
第7・8回	ハイリスク妊産褥婦：常位胎盤早期剥離、前置胎盤、妊娠高血圧症候群、異常分娩、胎児機能不全、帝王切開術、					橋 口		
第9・10回	ハイリスク妊産褥婦の看護					井 上		
第11～13回	新生児の生理・ハイリスク新生児：新生児合併症、分娩外傷、低出生体重児、先天異常・障害をもつ新生児、胎児機能不全					源 川		
第14・15回	ハイリスク新生児の看護					賀 数		
テキスト	1. 森 恵美他：系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 2. 佐世正勝/石村由利子：ウェルネスからみた母性看護＋病態関連図. 医学書院							
参考文献	横尾京子・中込さと子（編集）：ナーシンググラフィカ 母性看護実践の基本 第3版 メディカ出版 横尾京子・中込さと子（編集）：ナーシンググラフィカ 母性看護技術 第2版 メディカ出版 前原 澄子（編集）：新看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ 中央法規 前原 澄子（編集）：新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅱ							

他科目との 関連	周産期保健看護Ⅰ、周産期保健看護実習Ⅰ、疾病論Ⅰ、疾病論Ⅱを踏まえて授業に臨むこと。 周産期保健看護演習及び周産期保健看護実習Ⅱに関連する。
成績評価 の方法	筆記試験80%、ミニテスト10%、提出物10%
学習相談・ 助言体制	ゆいノートの課題への助言及び毎回の授業の終了時に理解できなかった事項、疑問に感じた 事項等の質問を受け、次回授業時に説明を補足する。
授業改善の 特記事項	ミニテストを実施し、必要時解説を行う。
備 考	次回使用のテキスト箇所および資料内容を読み、ゆいノートを予習する。 周産期保健看護演習とのつながりを意識して講義に臨むこと。 *テキストは最新版を使用します。提示された頁は変更の可能性があります。

科目 コード	33128	授業 科目	周産期保健看護演習 (Perinatal Health Nursing Seminar)			担当 教員	○井上松代 賀数いづみ 西平朋子		
開講年次	3年次 後期	単位数	1単位	科目	専門関連科目	授業 形態	演習		
選択必修	必修	時間数	30時間	分類					
履修 条件	前提科目	生活援助・療養援助技術実習 周産期保健看護実習Ⅰ 周産期保健看護Ⅱ							
	その他	なし							
授業概要	周産期保健看護ⅠおよびⅡをふまえ、産婦・褥婦および新生児をケアするために必要な看護の原則と方法などについて看護実践と関連づけて学習する。								
到達目標	1. 模擬事例を通して、正常な産婦・褥婦・新生児の経過からウェルネスの視点で看護計画が立案できる。 2. 産婦・褥婦・新生児に必要な基本的な母性看護技術を習得する。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1回	分娩期の看護：産婦の援助				第1回：講義開始時小テスト *テキストを全て読んでおくこと *ゆいノートの課題を講義開講時に提示する	賀 数	演習		
第2回	褥婦の看護：全身状態の観察と子宮復古促進の援助					井 上			
第3回	新生児の観察：新生児のバイタルサイン測定と計測					西 平			
第4回	新生児の清潔と保温：沐浴・臍処置・保育器					賀 数			
第5回	母乳育児支援					井 上			
第6回	褥婦の看護過程：分娩時の情報から看護計画立案					井 上			
第7回	褥婦の看護過程：看護計画グループワーク					〃			
第8回	褥婦の看護過程：発表とディスカッション					賀数・井上・西平			
第9回	新生児の看護過程：分娩時の情報から看護計画立案					西 平			
第10回	新生児の看護過程：看護計画グループワーク					〃			
第11回	新生児の看護過程：発表とディスカッション					賀数・井上			
第12回	褥婦への保健指導：発表とディスカッション					西 平			
第13回	新生児に必要な保健指導：発表とディスカッション					他			
第14回	技術試験1：褥婦の観察と母乳育児支援					賀数・井上			
第15回	技術試験2：新生児の観察と沐浴					賀数・西平			
テキスト	1. 森 恵美他：系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 2. 佐世正勝/石村由利子：ウェルネスからみた母性看護＋病態関連図, 医学書院. 3. 医療情報科学研究所編集：病気がみえるVol.10 産科第2版, MEDIC MEDIA. 4. 太田操：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程, 医歯薬出版								
参考文献	横尾京子・中込さと子（編集）：ナーシンググラフィカ 30 母性看護実践の基本, メディカ出版. 横尾京子・中込さと子（編集）：ナーシンググラフィカ 31 母性看護技術, メディカ出版. 前原 澄子（編集）：新看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ, 中央法規. 前原 澄子（編集）：新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅱ, 中央法規.								
他科目との 関連	周産期保健看護Ⅱの講義で得た知識をもとに、看護過程の展開、保健指導、看護技術を習得するための学習を行なう。								

成績評価の方法	講義への参加度（発言・提出物）10%、保健指導（褥婦10、新生児10）20%、技術試験（試験1：30、試験2：20）50%、看護計画立案（褥婦10、新生児10）20%
学習相談・助言体制	毎回の講義終了後に質問を受ける時間を取る。 講義時間外でも技術練習ができるよう実習室を開放し、指導が必要な場合に教員と連絡がとれるよう担当教員の指導可能時間と連絡先を提示しておく。
授業改善の特記事項	ゆいノートを演習で活用し、学生の学習状況を把握する。 少人数制の指導を行なう。
備考	1. 看護過程（褥婦、新生児）の課題は、発表・ディスカッションの演習終了後翌日提出をする。 2. 保健指導（褥婦、新生児）用のパンフレットは、発表・ディスカッションをふまえてグループメンバーで追加・修正を行った後、実習初日に実習担当教員へ提出する。 なし

科目 コード	33133	授業 科目	周産期保健看護実習 I (Perinatal Health Care Practicum I)			担当 教員	○井上松代 賀数いづみ 西平朋子	
開講年次	2年次 後期	単位数	1単位	科目	専門関連科目	授業 形態	実 習	
選択必修	必 修	時間数	45時間	分類				
履 修 条 件	前提科目	周産期保健看護 I						
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を終了していることも条件として追加される。						
授業概要	社会に支えられながら地域で生活している妊婦の特徴やアセスメント法、ならびに支援方法について実習を通して学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦やその家族の人格を尊重した関わりができる。 2. 妊娠の経過に伴う身体的・心理的・社会的な変化について説明できる。 3. 妊婦の健康診査に必要な基本的看護技術が実践できる。 4. 妊娠期の保健指導について説明できる。 5. 母子保健医療チームにおける外来看護師の役割を説明できる。 6. 実践したことを振り返り、自己の課題を見出すことができる。 							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員	
5 日間	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦の健康診査の実際を学ぶ。 (血圧・体重測定、腹囲・子宮底測定、腹部触診、胎児心音聴取、浮腫の観察など指導者の指導のもと実施) 2. 妊婦とのコミュニケーション、カルテや親子健康手帳から、妊婦の日常生活、身体的・心理的・社会的変化を情報収集する。 3. 外来で行われている保健指導の実際を学ぶ。 <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 妊婦の健康診査 <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊婦を受け持ち、外来受診から終了まで同行する 2) 健康診査の項目について指導者の指導のもと実施する 3) 保健指導の見学 4) 受け持ち妊婦についてアセスメントを行う 3. カンファレンス <ol style="list-style-type: none"> 1) 毎日行い、学生間で知識や体験を共有する 2) 実習最終日は学内で行う 						井 上 賀 数 西 平 下 中 嘉陽田	
テキスト	実習の手引き2年後期 「周産期保健看護実習 I」							
参考文献	周産期保健看護 I で使用したテキストおよび参考文献 井上裕美他 (監修): 病気がみえる Vol. 10 産科、メディックメディア							
他科目との 関連	周産期保健看護 I の講義で得た知識をもとに、看護技術を習得するための学習を行なう。							
成績評価の 方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に準ずる。 実習の成績は、年度内に実施されるすべての実習が終了した後に確定される。							
学習相談・ 助言体制	毎回の実習終了後に質問を受ける時間を取る。 実習時間外でも技術練習ができるよう実習室を開放し、指導が必要な場合に教員と連絡がとれるよう担当教員の指導可能時間と連絡先を提示しておく。							

授業改善の特記事項	ALOHAノートを実習初日で確認し、学生の学習準備状況を把握する。 看護技術は担当教員または臨床指導者とマンツーマンで指導を行なう。
備考	なし

科目 コード	33134	授業 科目	周産期保健看護実習Ⅱ (Perinatal Health Nursing PracticumⅡ)			担当 教員	○賀数いづみ 井上松代 西平朋子	
開講年次	3年次 後期	単位数	2単位	科目	専門関連科目		授業 形態	実 習
選択必修	必 修	時間数	90時間	分類				
履修 条件	前提科目	周産期保健看護演習						
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を終了していることも条件として追加される。						
授業概要	産婦・褥婦・新生児の臨床経過や心理社会的特徴を理解し、看護に必要な基本的知識・技術・態度を病産院での実習を通して学習する。NICUに入院している乳児の基本的な看護についても学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産婦・褥婦・新生児とその家族の人格を尊重した関わりができる。 2. 産婦・褥婦・新生児とその家族が親子関係・家族関係を形成するために必要な看護について説明できる。 3. 正常から逸脱した新生児とその家族に必要な看護について説明できる。 4. 産婦・褥婦の身体的・心理的・社会的特徴に基づいた看護計画の立案・実践・評価ができる。 5. 新生児のアセスメントに基づいた看護計画の立案・実践・評価ができる。 6. 母子保健医療チームにおける看護師の役割を説明することができる。 7. 実践したことを振り返り、自己の学習課題を明確にすることができる。 							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員	
10日	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 褥婦の看護計画立案とケアの実施。 2. 正常新生児の観察と計測、清潔の援助（沐浴など）、授乳の実施。 3. 正常新生児の形態学的・生理的特徴と胎外生活適応過程について学ぶ。 4. 褥婦・新生児の1か月健康診査(または母乳外来)を見学し、日常生活、身体的・心理・社会的変化を学ぶ。 5. 低出生体重児・ハイリスク新生児の看護を学ぶ(NICU)。 6. 分娩見学を行い、産婦や出生直後の新生児に必要な看護を学ぶ。 <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 母子1組を受け持ち、ケアを行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護計画の立案と計画の実施 2) 必要な保健指導を1つ行う。 3) 院内で実施される集団保健指導を見学する。 3. 新生児室(2日間) 4. NICU(1日間) 5. 褥婦・新生児の1か月健診見学(1例)または母乳・育児支援外来の見学 6. 毎日のカンファレンスで学生間の知識や学びを共有する。 7. 最終日は学内でカンファレンスを行う。 						賀 数 井 上 西 平 下 中 嘉陽田	
テキスト	実習の手引き3年次							
参考文献	周産期保健看護Ⅰ、周産期保健看護Ⅱ、周産期保健看護演習で使用したテキストおよび参考文献							
他科目との 関連	周産期保健看護Ⅰ、周産期保健実習Ⅰ、疾病論Ⅰ、疾病論Ⅱ、周産期保健看護Ⅱ、周産期保健看護演習と関連する。							
成績評価の 方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に準ずる。 実習の成績は、年度内に実施されるすべての実習が終了した後に確定される。							

学習相談・ 助言体制	基本技術について相談を受け、助言する。また、実習前に基本的看護技術（沐浴など）の練習が実施できるよう実習室の整備を行う。
授業改善の 特記事項	周産期保健看護演習で集中的に基本的看護技術を確認し、修得できるようにする。
備 考	事前学習「ゆいノート」を完成させて、実習初日に提出する。 基本看護技術〈沐浴・新生児のバイタルサイン測定、計測等〉を十分に練習して実習に臨む。

科目 コード	32126	授業 科目	小児保健看護 I (Child Health Nursing I)			担当 教員	○永島すえみ 上原和代		
開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目	専門関連科目	授業 形態	講 義		
選択必修	必修	時間数	15時間	分類					
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	子どもの成長・発達と健康を社会や環境との視点から捉え、健康の維持増進、疾病の予防に関する方法、小児期における健康状態の動向と対策を学習する。子どもの身体的心理的健康を支援するための基本的ヘルスケアを学習する。								
到達目標	1. 小児保健看護において重要な概念と小児看護師の役割を説明できる。 2. 国内外の小児保健医療の動向、法律、保健医療サービスを説明できる。 3. 子どもの基本的生活習慣の獲得過程について説明できる。 4. 子どもの健康な成長発達を促すために必要な日常生活の援助方法について説明できる。 5. 子どもの健康障害やそのリスクを早期に発見するための評価方法について説明できる。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第 1 回	小児看護で用いられる概念と理論 小児看護とは、小児看護の歴史と意義 子どもの権利と看護 小児看護の課題					1. P12-33	永 島	講義	
第 2 回	小児看護と法律・施策 子どもと家族を取り巻く社会、子どもと家族の諸統計 母子保健施策 小児看護で用いられる理論					1. P34-53 1. P59-70	〃		
第 3 回	子どもの成長・発達と看護 成長・発達とは、成長・発達の進み方 成長・発達に影響する因子、成長の評価、発達の評価					1. P78-79 P162-168	〃		
第 4 回	乳児期の子どもの成長・発達と看護					1. P80-97	上 原		
第 5 回	幼児期の子どもの成長・発達と看護					1. P100-104 1. P118-130	〃		
第 6 回	乳幼児期の子どもの日常生活と援助 食事、排泄、睡眠、清潔					1. P104-119 2. P58-72、 P98-104 P124-133	〃		
第 7 回	学童期の子どもの成長・発達と看護					1. P131-144.	永 島		
第 8 回	思春期の人々の成長・発達と看護					P147-158	〃		
テキスト	1. ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 2. ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術								

参考文献	生涯人間発達学改訂第2版増補版:上田礼子、三輪書店、2012 授乳・離乳の支援ガイド実践の手引き、母子衛生研究会、2008 厚生指針 増刊 国民衛生の動向、厚生統計協会、最新刊 DENVER II デンバー発達判定法、日本小児保健協会、日本小児医事出版社、2009 こどものフィジカルアセスメント:小野田千枝子監修、金原出版、2001 系統看護学講座 小児看護学①②:奈良間美保他、医学書院
他科目との 関連	1年次後期開講の生涯人間発達論、生活援助・療養援助技術I(子どもの日常生活に関する援助技術)の復習をしておくことと本科目が効果的に学習できる。子どもと家族の健康のアセスメントおよび子どもの成長発達と健康な生活への支援に活用できる知識を得、小児保健看護実習Iの準備とする。
成績評価 の方法	授業参加状況10%、ミニテスト10%、期末試験80%とする。
学習相談・ 助言体制	授業当日の16:00~17:00をオフィスアワーとし、各回の担当教員が対応する。
授業改善の 特記事項	テキスト内容の補足資料を配付する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は原則として1コマあたり最低90分ずつの予習と復習が必要である。 ・毎回ミニ復習テストを実施するので、各自必ず理解の度合いを振り返ること。 ・本科目は原則として成績不良者への学期末試験の再試験は行わない。

科目 コード	32133	授業 科目	小児保健看護実習 I (Child Health Nursing Practicum I)			担当 教員	○上原和代 山本真充 永島すえみ 他		
開講年次	2年次 後期	単位数	1単位	科目	専門関連科目			授業 形態	実 習
選択必修	必 修	時間数	45時間	分類					
履 修 条 件	前提科目	小児保健看護 I							
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに 11 月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。							
授業概要	健康な子どもの成長発達の特徴とそのアセスメント方法や支援方法、また日常ありふれた健康問題をもった子どもへの支援方法について、主に保育所での実習をとおして学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実習生として責任を自覚した行動ができる。 2. 乳幼児に関わる者として、子どもの人権を理解し尊重した行動ができる。 3. 乳幼児の成長・発達の状態を観察し、評価ができる。 4. 保育所における安全管理、安全教育について説明できる。 5. 乳幼児と積極的に関わることができる。 6. 乳幼児の成長・発達に応じた基本的生活習慣の自立を支援できる。 7. 保育士および保育所の社会における役割を説明できる。 8. 実践したことを振り返り、自己の課題を見出すことができる。 								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画							指導教員	
5 日間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳幼児の成長発達、基本的生活習慣とその自立の程度、あそび、子ども集団で生じる相互作用などを観察する。 2) 観察した内容を標準的指標や発達段階に照らして分析、評価する。 3) 乳幼児の発達段階に応じた保育士の関わり方を学び、保育士とともに乳幼児に合わせた生活支援を行う。 4) 保育所における安全管理と安全教育、乳幼児に適した保育環境について情報収集し環境整備や安全に配慮した支援を行う。 5) 保育所の社会的役割、地域や家庭との連携について考察する。 2. 実習の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生は実習開始までに事前に提示された課題にとりくむ。 2) 実習初日、学生は保育所職員から施設オリエンテーションを受ける。 3) 学生は配置されたクラスの日課に沿って実習を行い、子どもへの生活支援について施設の指導者から助言を受ける。 4) 学生は日々のカンファレンス、施設および学内報告会を運営し、互いの学内容を共有することで理解を深める。 5) 学生は実践の振り返りを通して自己の学習課題を明確にする。 6) 学生は所定の実習記録を完成させ、期日までに提出する。 							上 原 山 本 宮 里 永 島 他	
テキスト	実習の手引き								
参考文献	生涯人間発達論、小児保健看護 I のテキストおよび講義資料、その他随時紹介								
他科目との 関連	生涯人間発達論、生活援助・療養援助技術 I、小児保健看護 I、既習の知識を実践の場で活用する。								
成績評価 の方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に基づく。実習の成績は、第2段階のすべての実習が終了した後に確定される。								

学習相談・ 助言体制	教員は日々のカンファレンスに参加し、学生の子ども理解が深まるよう相談助言を行う。実際の子どもの世話やコミュニケーションスキルは実習指導者から直接学ぶ。
授業改善の 特記事項	4～5施設に分かれて実習するため、最終日に学生間の学びの共有する効果的な方法を検討する。
備 考	実習に臨むにあたり、既習の子どもの発達段階の特徴、子どもへの日常生活援助技術を十分に練習しておくこと。

科目 コード	32127	授業 科目	小児保健看護Ⅱ (Child Health Nursing Ⅱ)			担当 教員	○上原和代 永島すえみ 山本真充					
開講年次	3年次 前期	単位数	2単位	科目	専門関連科目	授業 形態	講 義					
選択必修	必修	時間数	30時間	分類								
履修 条件	前提科目	なし										
	その他	なし										
授業概要	子どもに特有の健康障害を中心に、病態生理や症状、診断、治療などをふまえ、病院、家庭、学校、地域において種々の健康レベルにある子どもへの看護支援に必要な基礎的知識や倫理的態度の重要性について学習する。											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護について説明できる。 2. 子どもの権利を擁護し発達を支援する看護について説明できる。 3. 健康障害をもつ子どもと家族に対し、病態生理を踏まえ疾病の経過別、症状別、治療処置別、及びさまざまな状況における看護の方法について説明できる。 4. 健康障害をもつ子どもと家族に対し、入院、外来、在宅の場における看護の方法について説明できる。 											
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態				
第1回	病気・障害を持つ子どもと家族の看護 病気・障害が子どもと家族に与える影響 子どもの健康問題と看護					事前学習 1. P70-74 1. P174-188	永 島 上 原 山 本	講 義				
第2回	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護(1) 入院中の子どもと家族の看護 外来における子どもと家族の看護					事前学習 2. P28-55 1. P266-273						
第3回	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護(2) 在宅療養中の子どもと家族の看護 災害時の子どもと家族の看護					事前学習 1. P274-284 1. P285-294						
第4回	臨床小児看護の実際(1) (実習施設小児病棟 看護師)					事後レポート						
第5回	臨床小児看護の実際(2) (実習施設小児病棟 看護師)					事後レポート						
第6回	子どもと家族との援助関係の形成 子どもの心理的準備の援助 (実習施設 チャイルドライフスペシャリスト)					事前学習 2. P12-26 1. P252-265						
第7回	障害のある子どもと家族の看護					事後レポート 事前学習 1. P326-338 1. P339-353						
第8回	児童虐待が疑われる子どもと家族の看護					事前学習 1. P295-302						
第9～15回	子どもにおける疾病の経過と看護 症状を示す子どもの看護 検査・処置を受ける子どもと家族の看護 事例を用いて上記について学習する。					事前学習 各回の前週に 提示する						
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. ナーシング・グラフィカ小児看護学① 小児の発達と看護：中野綾美 他、メディカ出版 2. ナーシング・グラフィカ小児看護学② 小児看護技術：中野綾美 他、メディカ出版 3. ナーシング・グラフィカ小児看護学③ 小児の疾患と看護：中野綾美 他、メディカ出版 毎回、該当テキストを講義に持参すること。											

参考文献	<p>系統看護学講座 小児看護学1：奈良間美保他、医学書院 系統看護学講座 小児看護学2：奈良間美保他、医学書院 小児看護技術：今野美紀・二宮啓子編、南江堂 生涯人間発達学改訂第2版増補版：上田礼子、三輪書店、2012 その他、随時提示する。</p>
他科目との関連	<p>生活援助・療養援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生涯人間発達論、ヘルスアセスメント、小児保健看護Ⅰ、小児保健看護実習Ⅰ、疾病論Ⅱ等、既習科目を統合し健康障害のある子どもと家族への看護へつなげる。</p>
成績評価の方法	<p>授業参加状況10%、事前テスト10%、レポート10%、学期末試験70%</p>
学習相談・助言体制	<p>講義週の月曜日の16：00～17：00をオフィスアワーとし、各回の担当教員が対応する。</p>
授業改善の特記事項	<p>テキスト内容の補足資料を配布する。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、原則として1コマあたり最低90分の予習と復習が必要である。 ・毎回ミニテストを行うのでテキストの該当ページを読んで授業に参加する。 ・原則として成績不良者への学期末試験の再試験は行わない。

科目 コード	32128	授業 科目	小児保健看護演習 (Child Health Nursing Seminar)			担当 教員	○上原和代 山本真充 永島すえみ 他		
開講年次	3年次 後期	単位数	1単位	科目	専門関連科目		授業 形態	演習	
選択必修	必修	時間数	30時間	分類					
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	小児保健看護ⅠおよびⅡをふまえ、子どもの健全な成長発達を促進するために必要な養育的ケアの原則と方法、育児支援などについて看護実践と関連付けて学習する。								
到達目標	1. 看護の実践に必要な小児看護の知識と技術（看護過程の展開、プレパレーション、養育的ケア、育児支援、療養生活指導、活動を制限された子どもへの遊び支援等）について模擬事例を通して習得する。 2. 発達段階と健康障害、安全・安楽を考慮した小児の主な看護技術を習得する。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1～8回	演習オリエンテーション 模擬事例を用いた看護過程演習 ・事例の看護過程の展開(1)事例の提供と共有 ・事例の看護過程の展開(2)対象把握 ・事例の看護過程の展開(3)アセスメント、プラン ・事例の看護過程の展開(4)アセスメント、プラン ・事例の看護過程の展開(5)プランの追加 ・事例の看護過程の展開(6)報告準備 ・事例の看護過程の展開(7,8)事例報告会				・子どもの発達 ・子どものヘルスアセスメント ・子どもに多い疾病の病態生理と主な検査、治療、看護	上原 山本 宮里 永島 他	演習		
第9～11回	小児看護技術演習 個別技術指導、小児看護技術試験 バイタルサイン測定、吸入、口鼻腔吸引 経管栄養、点滴静脈注射中の管理				・診療に伴う援助技術				
第12～14回	シミュレーション演習 シミュレーション1 ：子どもの状態に合わせた情報収集 シミュレーション2 ：子どもの状態に合わせた対応 シミュレーション3 ：入院中の子どもの環境調整				上記について該当するテキストの範囲を復習する。 詳細は事前に提示する				
第15回	まとめ								
テキスト	小児保健看護Ⅰ、小児保健看護Ⅱで使用したテキストの他、資料を配布する。								
参考文献	・系統看護学講座 小児看護学①②：奈良間美保他、医学書院 ・小児看護実習ガイド：筒井真優美他、照林社 ・発達段階からみた小児看護過程：石黒彩子他、医学書院								
他科目との 関連	小児保健看護実習Ⅱで学生がよく出会う子どもと基本的な看護技術及び看護過程の展開方法について学習する。								

成績評価の方法	授業参加状況60%、看護過程の個別記録10%、看護過程のグループワーク10%、筆記試験10%、看護技術試験10%とし総合的に評価する。 ただし筆記試験および看護技術試験の成績は6割以上を合格とし、不合格者は小児保健看護実習Ⅱに向けて個別指導を受ける。
学習相談・助言体制	演習期間中は、学生の相談に教員が対応できるよう体制を整える。教員は状況に応じロールモデル、ファシリテーター役割なので積極的に活用すること。
授業改善の特記事項	治療および看護を必要とする子どもと家族をイメージしながら学生が主体的に演習に取り組めるよう、以下のような展開とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・事前の学習課題を提示する。 ・学生は5～6名1グループで看護過程およびシミュレーション演習を展開する。 ・小児看護技術試験は事例を用いた状況設定型の試験とする。 ・筆記試験は本科目での学習範囲から出題する。
備考	小児保健看護実習Ⅱを受講する前提条件としてこの科目における技術の修得状況を参考にする。事前に提示する自己学習を含め主体的に演習に臨むことが必要である。

科目 コード	32134	授業 科目	小児保健看護実習Ⅱ (Child Health Nursing Practicum Ⅱ)			担当 教員	○永島すえみ 上原和代 山本真充 他		
開講年次	3年次 後期	単位数	2単位	科目	専門関連科目		授業 形態	実 習	
選択必修	必 修	時間数	90時間	分類					
履 修 条 件	前提科目	小児保健看護演習							
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。							
授業概要	健康障害をもつ子どもとその家族の家庭および社会環境を理解し、子どもの身体的・精神的な健康レベルや、QOLを高める看護に必要な基本的知識・技術・態度を医療施設の実習を通して学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康障害をもつ子どもとその家族の権利を尊重した関わりができる。 健康障害をもつ子どもの症状と発達に応じたコミュニケーションをとることができる。 健康障害をもつ子どもとその家族について、身体的・心理的・社会的側面に加え成長・発達に関する情報を収集できる。 収集した情報を整理し、分析・解釈・統合し、注目点を抽出して看護目標を設定することができる。 健康障害をもつ子どもとその家族に対し援助的関係を築くための行動をとることができる。 成長および発達段階、健康障害の程度を考慮し、安全・安楽と自立に留意した看護を計画・実践・評価できる。 子どもと家族を取り巻く専門職者等と良好なコミュニケーションをとることができる。 子どもの保健、医療、福祉、教育等の連携における看護師の役割を説明できる。 実践したことを振り返り、自己の学習課題を見出すことができる。 								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画							指導教員	
1日 ～ 10日	<ol style="list-style-type: none"> 実習内容 原則として学生1名で入院中の子どもを受け持ち看護過程を展開する。 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 実習期間：2週間（月曜日～金曜日） 実習時間：8：00～16：00 実習施設：沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、那覇市立病院、沖縄県立宮古病院、沖縄南部療育医療センター 実習の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 実習初日に病棟師長または担当者より病棟のオリエンテーションを受ける。受け持ちの子どもを決定する。 受け持ちの子どもの生活援助を行いながら、患者情報を収集・整理・アセスメントし看護上の注目点を導き、看護の方向性を検討する。 看護計画を立案する。 看護計画にもとづいて実践する。 毎日、実施した看護をSOAP形式で記録する。 受け持ちの子どもの看護サマリーを作成する。 カンファレンスおよび報告会は適時に行う。 受け持ちの子どもへ実施するケアは病棟の指導者、受け持ち看護師、教員の指導の下に行う。 受け持ちの子どもが外出・外泊等で病棟不在の場合は、他の学生が受け持っている子どもの検査や処置、スタッフやリーダー看護師に同行し病棟における看護活動を見学する。 学生は実践の振り返りを通して自己の学習課題を明確にする。 学生は所定の実習記録を完成させ、期日までに提出する。 							永 島 上 原 山 本 宮 里 他	

テキスト	実習の手引き
参考文献	小児保健看護Ⅰ、Ⅱで使用したテキスト、講義資料、その他随時紹介。
他科目との 関連	生涯人間発達論、生活援助・療養生活援助技術Ⅰ、ヘルスアセスメント、疾病論Ⅱ、小児保健看護Ⅰ、小児保健看護Ⅱ、小児保健看護演習など
成績評価 の方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に基づく。 小児保健看護演習の単位が認められない場合、本実習は履修しなかったものとする。
学習相談・ 助言体制	原則として実習グループ毎に実習指導教員を配置し指導する。実習上の疑問点や困ったことについては施設の実習指導者、教員へ積極的に相談し疑問を解決することを推奨する。
授業改善の 特記事項	実習中に実施が予想される、入院している子どもへの看護技術については小児保健看護演習で技術指導をする。実習の前提として技術チェックを行う。
備 考	実習に臨むにあたり、子どもの発達段階の特徴、子どもに多い疾患の病態・治療、子どものヘルスアセスメント、および基礎看護技術を十分練習しておくこと。

科目コード	34124	授業科目	成人保健看護 I (Adult Health Nursing I)			担当教員	○山本敬子 赤嶺伊都子		
開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目分類	専門関連科目	授業形態	講義		
選択必修	必修	時間数	15時間						
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	成人期にある人の生活と生活環境を理解し、健康の保持・増進・疾病予防のための保健管理および保健活動における看護の役割と機能を学習する。また、成人期にある人の看護の基本的な考え方や健康レベルに応じた看護について学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある人の生活と生活環境を述べることができる。 2. 成人期にある人の今日の健康動向と特有な健康課題および健康の保持・増進・疾病予防のための保健管理および保健活動について述べることができる。 3. 成人期にある人を看護するための基本的な考え方や役割と機能を述べることができる。 4. 成人期にある人の健康レベルに応じたQOLを考え、維持・高めるための看護を説明できる。 								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	成人期にある人の生活と生活環境					P1-31, 34-58	山本	講義	
第2・3回	成人期にある人の健康の保持・増進・疾病予防のための保健管理および保健活動					P59-82, P83-120	赤嶺	〃	
第4・5回	成人期にある人を看護するための基本的な考え方や看護の役割と機能					P121-158 P159-210	山本	〃	
第6・7回	成人期にある人の健康レベルに応じた看護						〃	〃	
	1) ヘルスプロモーション、ヘルスプロテクション					194-210		〃	
	2) 急性期					211-220		〃	
	3) リハビリテーション期					221-229	〃	〃	
	4) 慢性期					230-240		〃	
	5) 終末期					241-248		〃	
第8回	成人看護を充実させる実践的環境							〃	
	1)成人における人権擁護とは					250-253	〃	〃	
	2) 専門職間の連携と協働					254-259	〃	〃	
						課題レポート (事後)		〃	
テキスト	成人看護学概論 南江堂								
参考文献	新体系看護学 20 成人看護学①成人看護概論・成人保健 メジカルフレンド社 NURSING GRAPHICUS 成人看護学 成人看護学概論 MC メディカ出版 国民衛生の動向 Vol. 57 No. 9 2013/2014 財団法人 厚生統計協会								
他科目との関連	人間関係論、看護専門職論、生涯人間発達論、早期体験実習								
成績評価の方法	最終筆記試験：90%、 課題レポート：5% 授業参加状況：5%								
学習相談・助言体制	毎回の授業の終了時に、理解できなかった事項、疑問に感じた事項等を記載した出席カードの提出をもとめ、次回授業時に説明補充、意見交換等で理解を図る。必要時個人またはグループ面接を行う。								
授業改善の特記事項	テキスト内容を補充・説明する資料を配布する。 学生は次回使用のテキスト箇所および資料内容を読み、準備して授業に臨む。								
備考	平成26年度の授業評価を受け、シラバスは追加修正されている。								

科目コード	34125	授業科目	成人保健看護Ⅱ (Adult Health NursingⅡ)			担当 教員	○山本敬子 仲宗根洋子 赤嶺伊都子 宮城裕子	
開講年次	3年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講 義	
選択必修	必修	時間数	30時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	成人期にある人の健康障害を機能障害別に病態生理・治療を理解し、急性期から回復期、慢性期、終末期に応じた看護をリハビリテーション、在宅ケアを含めて学習する。対象者の権利を擁護し、自己管理に向けた支援と看護の役割を学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある人の健康障害を機能別に病態生理・症状・治療を説明することができる。 2. 急性期から回復期、慢性期、終末期の回復過程に応じた看護をリハビリテーション、在宅ケアを含めて説明できる。 3. 成人期にある人の看護に活用できる看護理論を説明できる。 4. 慢性疾患を有する人とその家族のセルフケア能力を高める方法と看護の役割を説明できる。 							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1・2回	1. 健康障害をもつ成人の看護 1) 慢性疾患と機能障害 2) 機能障害と看護過程の展開				P1-98 資料(成人看護学概論、NOUVELLE HIROKAWA) レポート(事後) P99-169	山 本	講義	
第3・4回	2. 成人期にある人の主な機能障害と看護 急性期、回復期、慢性期、終末期、 リハビリテーション、在宅ケア							
第5・6回	1) 呼吸機能障害の病態生理・治療と看護 2) 循環機能障害の病態生理・治療と看護				P173-205(32)	山 本		
第7回・8回	3) 脳・神経機能障害の病態生理・治療と看護				P208-229(21)	赤 嶺		
第9回・10回	4) 栄養摂取・消化機能障害の病態生理・治療と看護				P232-252(20)	宮 城		
第11回	5) 代謝機能障害の病態生理・治療と看護				P254-297(43)	仲宗根		
第12回	5) 内部環境調節機能障害の病態生理・治療と看護				P300-312(12)	”		
第13回	5) 内部環境調節機能障害の病態生理・治療と看護				P314-336(22)	仲宗根		
第14回	6) 生体防御機能障害の病態生理・治療と看護				P338-379(41)	仲宗根		
第14～15回	7) 運動機能障害の病態生理・治療と看護 性・感覚機能障害の病態生理・治療と看護 8) 慢性期看護の今後の展望				P382-398(16) P424-455(31) P486-494(8)	山 本 ”		
テキスト	成人看護学 慢性期看護論 NOUVELLE HIROKAWA、 看護診断ハンドブック、リンダ J. カルペニート＝モイエ、医学書院							
参考文献	成人看護学概論 NOUVELLE HIROKAWA、 成人看護学 慢性期看護 南江堂 疾患別看護過程の展開 学研、ナーシング・グラフィカ⑩-⑮⑳-㉕、メディカ出版							

他科目との 関連	ストレスマネジメントと健康教育、栄養と代謝、臨床薬理、病態生理、リハビリテーション論、疾病論Ⅰ、臨床心理、ヘルスアセスメント、生活援助療養援助技術Ⅱ・Ⅲ、成人保健看護Ⅰ
成績評価 の方法	小テスト30%、課題レポート10%、筆記試験60%
学習相談・ 助言体制	終了時に理解できなかった事項、疑問に感じた事項等を記載した出席カードの提出をもとめる。次回授業時に説明補充、意見交換等で理解を図る。
授業改善の 特記事項	学生は次回使用のテキスト箇所および資料内容を読み、準備して授業に臨む。 毎回の授業のはじめに10分間の小テストを実施、 テキスト内容を補充・説明する資料を配布する。
備 考	

科目コード	34126	授業科目	成人保健看護演習 (Adult Health Nursing Seminar)			担当 教員	○赤嶺伊都子 仲宗根洋子 謝花小百合 宮城裕子 山本敬子 他		
開講年次	3年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演 習		
選択必修	必 修	時間数	30時間						
履修 条件	前提科目	成人保健看護実習Ⅰ 生活援助・療養援助技術実習 成人保健看護Ⅱ							
	その他	なし							
授業概要	健康障害を持つ成人期にある人の病態生理・治療を理解し、身体的、心理・社会的情報をアセスメントし、看護実践に必要な問題解決の基礎的能力を習得する。健康障害を持つ成人期にある人のセルフケア支援に必要な臨床技術、指導技術を学習する。また、実習の対象の権利を守るために、最低限必要な知識、技術および態度を養う。								
到達目標	1. 健康障害を持つ成人期にある人の病態生理・治療を理解し、身体的、心理・社会的情報をアセスメントできる。 2. 看護問題を抽出し、看護計画を立案できる。 3. 社会復帰・在宅ケア・セルフケア支援に必要な臨床技術・指導技術を習得できる。 4. 対象の権利を守るために、最低限必要な知識、技術および態度を習得できる。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形 態	
第1回～ 第5回	1. 事例を用いた看護過程演習 1) 健康障害を持つ成人期にある人の看護過程演習 2) グループ報告会					・看護過程資料 ・看護過程 ・グループ・個人 課題レポート	山 本 仲宗根 赤 嶺 謝 花 宮 城 永 野 荻 堂 他	演 習	
第6回～ 第11回	2. 臨床看護技術演習 1) 身体の変化をみる技術 全身状態、呼吸・循環状態の評価、報告 2) 呼吸ケアの看護技術 気管内吸引、口腔・鼻腔吸引、酸素療法、気道浄化 3) 創傷ケアの看護技術 皮膚の観察とアセスメント(褥瘡、足病変、ストーマ) 包帯法					・演習ノート ・テキストⅡ p2-19, 資料 テキストⅡ p72-91, 資料 テキストⅡ p92-109, p303- 307, 資料			
第12・13回	3. セルフケア支援の指導技術演習 1) ケーススタディ(食事療法、運動療法、服薬指導) 2) 教育計画、退院調整					テキストⅡ p124-159 p190-195, 資料			
第14・15回	4. 実技試験・個別指導								
テキスト	成人看護実習ガイドⅠ・Ⅱ、照林社、看護診断ハンドブック 第10版 医学書院 成人保健看護演習ノート(配布資料)、								
参考文献	疾患別看護過程の展開 学研 成人看護学 慢性期看護, 南江堂 成人保健看護 慢性期看護論, NUMBER HIROKAWA								
他科目との 関連	人間関係論、ストレスマネジメントと健康教育、疾病論Ⅰ、臨床心理、ヘルスアセスメント、 生活援助療養援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成人保健看護Ⅰ・Ⅱ、看護大学ゼミナールⅡ								
成績評価 の方法	技術試験30%、レポート70%(技術演習40%、看護過程演習30%)								
学習相談・ 助言体制	毎回の授業の終了時に、理解できなかった事項、疑問に感じた事項等を記載した出席カードの提出をもとめ、次回授業時に説明補充、意見交換等で理解を図る。								

授業改善の特記事項	演習ノート、テキスト内容を補充・説明する資料を配布する。 学生は次回使用の演習ノート、テキスト箇所および資料内容を読み、準備して授業に臨む。
備考	なし

科目コード	34135	授業科目	成人保健看護実習 I (Adult Health Nursing Practicum I)			担当 教員	○赤嶺伊都子 仲宗根洋子 謝花小百合 宮城裕子 山本敬子 他	
開講年次	2年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	実 習	
選択必修	必 修	時間数	45時間					
履修条件	前提科目	成人保健看護 I						
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。						
授業概要	成人期にある人の生活環境と社会的役割を把握し、健康の保持・増進、疾病予防・早期発見のための保健行動、受療行動、セルフケアにおける看護の役割・機能を学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の人権を尊重した倫理的態度で接することができる。 2. 保健医療機関の機能と役割について説明できる。 3. 成人期にある人の生活環境と社会的役割を理解し、成人期の特徴と健康上の問題を述べるすることができる。 4. 成人期にある人の健康及び健康障害の日常生活上の要因を理解し、健康の保持増進・疾病予防への支援活動について述べるすることができる。 5. 保健行動、受療行動、セルフケアにおける看護の役割・機能を説明できる。 6. 保健医療機関における関係職種との協働連携について説明できる。 7. 実習で経験したことを振り返り、自己の学習課題を述べるすることができる。 							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員	
1日目～ 4日目	実習内容：総合保健医療機関または総合病院外来における看護 実習の進め方： 1. オリエンテーション 1) 施設別・グループ別オリエンテーションを大学内で実習指導教員が行う。 2) 各実習施設の初日に実習担当看護師(外来師長または実習施設の看護職職員)が行う。 2. 総合保健機関または病院外来における実習(4日間) 1) 総合保健機関の場合 (1) 一人の利用者の健康診断に同伴する。 (2) 利用者とのコミュニケーションや利用者の反応、表情、言動の観察を行い、健康上のニーズをアセスメントする。 (3) 健康の保持増進・疾病予防の為に健康増進事業を学習する。 2) 病院外来の場合 (1) 成人期にある患者を1例受け持ち、受付から終了まで患者に同伴し、保健行動、セルフケア、受療行動などについて学び、患者に必要な看護援助を学ぶ。 (2) 禁煙外来や生活習慣病外来など、健康教育が行われている場において必要な看護援助を学ぶ。 (3) 利用者に対する医師、看護師、その他の病院職員のサービス・支援について学ぶ。 3. 実習報告会(最終日は大学内で、実習で学習したことについて報告会を行い、実習の成果を共有する)						山 本 仲宗根 赤 嶺 謝 花 宮 城 永 野 荻 堂 他	
5日目								
テキスト	「実習の手引き 2年次後期 成人保健看護実習 I」							
参考文献	成人看護学概論 南江堂、成人看護概論 NUVELLE HIROKAWA							
他科目との関連	疫学と保健医療情報・人間関係論・生涯人間発達論・看護専門職論 I・ヘルスアセスメント・地域保健看護 I・地域保健看護実習 I・成人保健看護 I等の既習科目および実習の内容を統合している。							
成績評価の方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に準ずる。 実習の成績は、年度内に実施されるすべての実習が終了した後に確定される。							
学習相談・助言体制	毎日の実習カンファレンスを充実し、実習で学習した内容を深める。記録、レポート等の記録物について指導、助言をする。学生の実習に関する相談に対応する。							
授業改善の特記事項	実習内容を補充・説明する資料を配布する。							
備 考	施設概要を読んで実習に参加する。							

科目コード	34136	授業科目	成人保健看護実習Ⅱ (Adult Health Nursing Practicum Ⅱ)			担当教員	○仲宗根洋子 赤嶺伊都子 謝花小百合 宮城裕子 山本敬子		
開講年次	3年次 後期	単位数	2単位	科目分類	専門関連科目	授業形態	実習		
選択必修	必修	時間数	90時間						
履修条件	前提科目	成人保健看護演習							
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。							
授業概要	健康障害をもち医療機関で入院加療の必要な成人の身体的・心理社会的側面を理解し、社会復帰または在宅ケアを視野に、対象者との相互作用を通して健康回復およびセルフケアへの看護が実践できる基礎的知識、技術および倫理的態度を学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の人権を尊重した倫理的態度で援助を行うことができる。 2. 成人期の健康障害の病態像、治療法について説明することができる。 3. 成人期特有の健康障害に伴う身体的・心理社会的側面に基づいた看護計画立案・実施・評価・修正することができる。 4. 対象者との相互作用を通して健康回復およびセルフケアへの看護が実践できる。 5. 社会復帰または在宅ケアを視野に対象者を取り巻く環境調整の必要性和、関係職種との連携による社会資源の活用法が説明できる。 6. 実践したことを振り返り、自己の学習課題を明確にすることができる。 								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画							指導教員	
1週目 ～ 2週目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の健康障害を有した患者を受け持ち、看護過程を展開する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康障害の病態像と対象者の日常生活に及ぼす影響、変化をアセスメントする。 2) 対象者が健康障害をどのように捉えているのかをアセスメントする。 3) 治療法に伴う生体反応を観察・測定し、対象者の身体的・心理的状态をアセスメントし、計画立案できる。 4) 計画に基づいて安全に実施し評価することができる。 5) 対象者と目標を共有して、セルフケアのための支援を行うことができる。 6) 生活環境や職場環境、経済的問題について傾聴し、対象者が意思決定するための支援を行うことができる。 2. 実習最終日は大学内で事例報告会を行い、受け持った患者への看護実践を報告し実習の成果を共有する。 							山本 仲宗根 赤嶺 謝花 宮城 永野 他	
テキスト	なし								
参考文献	成人看護学 慢性期看護論 NOUVELLE HIROKAWA、 看護診断ハンドブック、リンダ J. カルペニート＝モイエ、医学書院								
他科目との関連	看護活動を実施できる基礎的知識、技術および倫理的態度を学習するために、疾病論Ⅰ・ヘルスアセスメント・生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生活援助・療養援助技術実習・成人保健看護Ⅰ・成人保健看護Ⅱ・成人保健看護演習・成人保健看護実習Ⅰ等の既習科目や実習の内容を統合している。								
成績評価の方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に準ずる。								
学習相談・助言体制	実習では毎日のカンファレンスでグループごとに振り返りを行い、各自の学んだことについて発表しグループ全体で共有し、理解できなかった事項、疑問に感じた事項等を全員で考え、翌日の実習展開をスムーズに行うように指導助言していく。								
授業改善の特記事項	実習指導上の問題は、早期に現場の師長や指導者と話し合い、双方が協力体制を構築し取り組む。								

備 考

事前・事後学習(学習課題)：包括的なアセスメントのための観察・測定、傾聴コミュニケーション技術、呼吸・循環、内分泌代謝障害などの病態生理、セルフケア支援のための理論

科目 コード	35125	授業 科目	老年保健看護 I (Geriatric Nursing I)			担当 教員	○佐久川政吉 大湾明美 田場由紀		
開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目		授業 形態	講 義	
選択必修	必 修	時間数	15時間						
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	高齢者の健康（身体的・精神的・社会的）と生活、これらに影響を及ぼす社会システムおよび老年期における健康状態の動向と対策を学習し、健康長寿（サクセスフルエイジング）を支援するための看護の役割を学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の健康と地域文化を含めた生活について、身体的、心理的、社会的特徴を述べることができる 2. 高齢者を個別的に捉える進展として、ストレングス、生活ニーズ、および ICF モデルの説明ができる 3. 高齢者の生活を取り巻く社会システムや環境が、高齢者の生活や健康に与える影響を述べるができる 4. QOL の概念について説明することができる 5. サクセスフルエイジングを支援するための看護の役割について述べるができる 								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1回	1. 老年保健看護を理解するための基盤（導入） 1) 老年保健看護の重要な概念、理論、モデル 2) 老年保健看護の歴史				*毎回事前課題 レポートを出す	佐久川	講義		
第2回	2. 高齢者の見方と捉え方 1) 高齢者の個別性と多様性 2) 統一体としての捉え方 3. 老化に伴う身体機能の変化と健康と生活				P103-138 P139-146 P147-159	田 場			
第3回	1) 高齢者疑似体験					佐久川			
第4回	2) 高齢者の健康と生活の捉え方 3) 高齢者のサクセスフルエイジングと生活				P66-71 P84-101	佐久川			
第5回	4. 高齢者の健康と生活に影響を及ぼす社会システム 1) 高齢者を取り巻く社会と社会保障の変遷 2) 高齢者の保健・医療・福祉・介護対策				P37-40 P40-43	田 場			
第6回	5. 高齢者を取り巻く環境 1) 高齢者を取り巻く環境の捉え方 2) 生かし生かされる環境づくり 6. サクセスフルエイジングを支援するための老年 保健看護の役割				P43-50 P279-287 P314-324	大 湾			
第7回	1) QOLの概念とQOLを高めるための社会的な取り組み					田 場			
第8回	2) サクセスフルエイジングを支援するための老年 保健看護の役割				別資料 P325-330	佐久川			
テキスト	老年看護学概論，南江堂，2011.								
参考文献	老年看護学技術，南江堂，2011.								
他科目との 関連	生涯人間発達論、心理学などの既習科目の内容を踏襲しつつ、高齢者看護の対象論、目的論を具体的に示し、老年保健看護科目への導入とする。								
成績評価の 方法	授業参加状況10%、課題レポート10%、試験80%								
学習相談・ 助言体制	毎回の授業ごとに、関連のある課題レポートを課す。レポートは次回の授業までに提出を求め、講義内容についての理解を広げ深める方法の体験を促す。								
授業改善の 特記事項	講義内容を伝達するための講義資料を毎回作成、配布する。 講義内容と関連する国試問題を毎回提示し、事後課題とする。								
備 考	毎回テキストの該当ページを読んで授業に参加すること。								

科目コード	35126	授業科目	老年保健看護Ⅱ (Geriatric NursingⅡ)			担当教員	○佐久川政吉 田場由紀 山口初代 大湾明美		
開講年次	3年次 前期	単位数	2単位	科目分類	専門関連科目	授業形態	講義		
選択必修	必修	時間数	30時間						
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	高齢者の健康障害に対する基本的な知識を体系的に学習し、施設や在宅等多様な場で、健康レベルに応じたケアを必要とする高齢者の尊厳を支える看護について学習する								
到達目標	1. 高齢者特徴的な疾患（老年症候群、認知症）について述べることができる 2. 高齢者の健康障害によってもたらされる生活機能障害について述べるができる 3. 高齢者ケアの考え方（尊厳、自己決定、QOL、エンパワメント）について述べるができる 4. 多様な高齢者ケアの場におけるケアの特性を述べるができる 5. 高齢者の尊厳を支える看護の役割と展望について述べるができる								
授業回数	授業内容及び計画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	1. 高齢者の健康障害と生活					*毎回事前課題レポートを出す	佐久川	講義	
第2回	1) 高齢者の健康障害をもたらす主要疾患 2) 老年症候群と生活機能障害 3) 高齢者の慢性疾患とリスク					①P220-226 ①P189-229 別刷			
第3回	2. 高齢者の健康レベルと社会サービス								
第4回	1) 高齢者の健康を支える社会サービス					①P306-313	山口		
第5回	2) 高齢者の診断・治療を支える社会サービス					①P34-55	佐久川		
第6回	3) 高齢者の療養生活を支える社会サービス					①P270-277	田場		
第7回	3. 高齢者の生活する多様な場におけるケア								
第8回	1) 治療の場と療養の場におけるケアの特性 2) 日常生活の場におけるケアの特性					①P288-305 ①P81-87	山口		
第9回	4. 高齢者のもつ社会資源を生かしたケア								
第10回	1) 社会資源としての高齢者を生かすケア					①P320-322	田場		
第11回	2) 介護する家族を生かすケア 3) 家族以外のインフォーマルサポートを生かすケア					①P253-278 ①P260-269	山口 佐久川		
第12回	5. 高齢者の尊厳を支えるための看護								
第13回	1) 基本的人権の尊重、権利擁護、倫理に基づくケア 2) 自己決定を支えるケア					①P51-64 ①P231-237	田場 山口		
第14回	6. 高齢者の尊厳を支える看護の役割と展望								
第15回	1) 当事者主体の高齢者ケア 2) 看護の役割拡大と協働連携					①P325-344 ①P306-312	佐久川 大湾		
テキスト	①老年看護学概論，南江堂，2011． ②老年看護学技術，南江堂，2011．								
参考文献	別途指示する。								
他科目との関連	老年保健看護Ⅰで示す高齢者看護の対象論、目的論、方法論を前提とし、人体の構造と機能、疾病論Ⅰ・Ⅱ、人間関係論等の既習科目を統合し、高齢者看護の実際を学ぶ。								
成績評価の方法	授業参加状況10%、課題レポート10%、試験80%								
学習相談・助言体制	毎回の授業ごとに、関連のある課題レポートを課す。レポートは次回の授業までに提出を求め、講義内容についての理解を広げ深める方法の体験を促す。								
授業改善の特記事項	講義内容を伝達するための講義資料を毎回作成、配布する。 講義内容と関連する国試問題を毎回提示し、事後課題とする。								
備考	毎回テキストの該当ページを読んで授業に参加すること。								

科目 コード	35127	授業 科目	老年保健看護演習 (Geriatric Nursing Seminar)			担当 教員	○佐久川政吉 田場由紀 山口初代 他					
開講年次	4年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演 習					
選択必修	必 修	時間数	30時間									
履修 条件	前提科目	老年保健看護実習Ⅰ 生活援助・療養援助技術実習 老年保健看護Ⅱ										
	その他	なし										
授業概要	高齢者の健康障害に伴う生活機能のアセスメントとケアの技法を学習し、根拠に基づいた看護実践上の問題解決能力を習得する。											
到達目標	1. 加齢や認知症に伴うコミュニケーション障害への支援方法を習得する 2. 客観的指標を用いた高齢者総合機能評価の技法を習得する 3. 高齢者の全体像（身体状況、心理状況、社会状況および環境）を把握し、生活ニーズを導くためのアセスメント技法を習得する 4. 高齢者及びその家族への看護実践および看護研究から導かれたケア技法を学び、問題解決能力を習得する。											
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学 習 (学習課 目)	担当者名	授業形態				
第1回	1. 援助関係を形成するプロセスと援助者の態度 1) 基本的人権の擁護に関する概念の理解 2) 援助関係の形成					*事前に読むこと ①P232-252	佐久川 田 場 山 口 他	演 習				
第2・3回	2. 援助関係を形成するためのコミュニケーション技法 1) コミュニケーション能力のアセスメント 2) コミュニケーション障害に伴うケア技法					②P106-116						
第4・5回	3. 高齢者のケアマネジメント 1) 生活ニーズとケアマネジメント 2) 高齢者と生活環境					②P2-15 ①P288-305						
第6～10回	4. 高齢者の生活アセスメント技法① 1) 生活機能のアセスメント 2) 総合機能評価					②P32-125 ②P18-30						
第11～12回	5. 高齢者の生活アセスメント技法② 1) 高齢者のストレングスを活かした看護計画 2) 家族介護者のアセスメント					②P128-308 ①P253-278						
第13～15回	6. 高齢者ケアの技法 1) 高齢者へのケア技法 2) 家族介護者へのケア技法					②P310-391						
テキスト	①老年看護学概論，南江堂，2011. ②老年看護学技術，南江堂，2011.											
参考文献	別途指示する。											
他科目との 関連	ヘルスアセスメント、生活援助・療養援助技術などの広域・基盤看護科目の内容を老年保健看護Ⅰ、老年保健看護Ⅱの既習科目と統合し、実際のケアに生かす方法を学ぶ。											
成績評価の 方法	授業参加状況20%、学習参加状況・課題レポート80%											
学習相談・助 言体制	毎回の授業ごとに、関連のある課題レポートを課す。課題レポートの内容は患者体験を促すものとし、尊厳を支える看護について多様な場面から検討する。											
授業改善の 特記事項	講義内容を伝達するための講義資料を毎回作成、配布する。 講義内容と関連する国試問題を毎回提示し、事後課題とする。											
備 考	毎回テキストの該当ページを読んで授業に参加すること。											

科目コード	35134	授業科目	老年保健看護実習 I (Geriatric Nursing Practicum I)			担当 教員	○田場由紀 佐久川政吉 山口初代 他		
開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	実 習		
選択必修	必 修	時間数	45時間						
履修条件	前提科目	老年保健看護 I							
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに 11 月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。							
授業概要	高齢者の健康状態と日常生活を理解した上で、サクセスフルエイジングを生きる高齢者から老年期の発達課題を乗り越えることで得た強み（ストレングス）を学び、その強みを高齢者の看護実践に活かす能力を習得する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象に関心を持ち、個人として尊重した態度を取ることができる 2. 観察とコミュニケーション技術を活用して、対象の生活史や加齢に伴う変化、人々との関わりから対象の健康と地域文化を含めた生活について、身体的、心理的、社会的状況を記述することができる 3. 対象の発達課題とストレングスについて、個別的に導くことができる 4. 対象のストレングスを生かしたサクセスフルエイジングの支援のためのアセスメントができる 5. 一連の看護実践をふり返り、自己の課題を見だし、今後の学習課題を述べることができる 								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画							指導教員	
	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) センターの活動に参加し、対象と積極的にかかわりをもつ。 2) 対象とのかかわりを通して、対象の生活史や日常生活、加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を把握する。 3) 対象の暮らす地域について学び、対象の日常生活への理解を深める。 4) 対象の感じている健康上の問題や思いを把握する。 5) 対象がセンターを利用する経緯や動機を把握し、対象の健康状態への理解を深める。 6) 対象の行っているセルフケアについて生活史や健康状態の影響と関連させ理解する。 7) 対象の発達課題を把握する。 8) 対象の家族、友人、知人、近隣、仲間との交流について把握する。 9) センターの活動が対象の健康状態や日常生活に及ぼしている影響を見いだす。 10) 対象の身体的・精神的・社会的特徴から、ストレングスを見いだす。 11) 対象のセルフケアと生きがいについての語りから、サクセスフルエイジングとの関係を述べるができる。 12) 対象のサクセスフルエイジングへのニーズを把握する。 13) 対象のストレングスをサクセスフルエイジングに生かす提案ができる。 14) 実習で学習したことを共有・統合し、今後の学習への課題を見いだす。 <p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) センターで紹介された対象の 1 事例を担当し、センター利用時以外の自宅での生活や他の活動にも同行する。 2) センター以外の場に出向く時には、目的や方法等を計画した上で、教員や実習指導者と調整した上で行う。 							田 場 佐久川 山 口 他	
テキスト	①老年看護学概論，南江堂，2011. ②老年看護学技術，南江堂，2011.								
参考文献	別途指示する								
他科目との関連	老年保健看護 I の既習科目を前提とし、人間関係論などの専門教養科目や看護専門職論、生活援助・療養援助技術を用いて対象理解のための実践を学ぶ								
成績評価の方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に準ずる。実習の成績は、年度内に実施される 実習が終了した後に確定される。 すべての								
学習相談・助言体制	実習中は毎日開始前と終了時にカンファレンスを実施し、学びの内容や互いの課題を共有し、教員、学生とで解決に取り組む								

授業改善の特記事項	実習中は実習のてびき、老年保健看護 I の資料を携帯し、理論と実践を行き来できるように促す。
備考	実習施設：老人福祉センター

科目 コード	35135	授業 科目	老年保健看護実習Ⅱ (Geriatric Nursing PracticumⅡ)			担当 教員	○佐久川政吉 田場由紀 山口初代 他		
開講年次	4年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	実 習		
選択必修	必 修	時間数	90時間						
履 修 条 件	前提科目	老年保健看護演習							
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに 11 月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。							
授業概要	認知症を持ち、多様な場でケアを受けつつ治療や療養生活をしている高齢者の健康課題を総合的に理解し、高齢者の尊厳を支えるための具体的な看護実践ができる能力と、自己を振り返り課題を見いだす能力を習得する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 治療・療養の場および生活の場で認知症に伴う症状やコミュニケーション上の課題を把握し、必要な支援を行うことができる。 2. ケアの場の特性を踏まえ、対象および家族の地域文化を含めた生活を理解し、医療ニーズ、生活ニーズをアセスメントし、看護問題を導くことができる。 3. 対象のストレンクスと社会資源を活用し、協働連携による本人および家族への看護計画、実施、評価ができる。 4. 一連の看護実践をふり返り、自己の課題を見だし、今後の学習課題を述べることができる。 								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画							指導教員	
	<p>実習内容</p> <p><治療・療養の場（病院、介護老人保健施設、介護療養型医療施設など）></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象との関わりや生活史を踏まえ、対象の体験世界と現実世界のずれを理解する。 2) 認知症に伴う症状やコミュニケーション上の課題を把握し、必要な支援を行う。 3) 対象に提供されているケアに参加しながら、対象の自立度、健康状態、生活状況、生活機能障害を把握する。 4) 対象や家族、ケア提供者と協働し、それぞれが果たしている役割を把握し、看護の役割機能を学ぶ。 5) 対象の生活の場（主に自宅）に関する物的環境、人的環境について、面接や家庭訪問、サービス調整会議、ケアカンファレンスなどを通して把握する。 6) 治療・療養の場で生活の継続性を支える条件について考察する。 7) 対象のストレンクスを踏まえた上で全体像（身体的状況、心理的状況、社会的状況）をアセスメントし、対象および家族の医療ニーズ、生活ニーズを導く。 8) 対象のニーズと家族のニーズの共通と相異を把握する。 9) 対象の認知機能に応じた自己決定の方法を見つける。 10) 対象の尊厳を支えるための看護計画を立案し、看護計画検討会で提案する。 11) 援助可能な計画を検討し、教員や実習指導者の下で計画に沿ったケアを実施する。 12) 対象のアセスメント、計画、実施のプロセスを振り返り、実施したケアの評価を行う。 13) 実施したケアの評価を踏まえ、対象の尊厳を支えるための今後のケアの方針を提案する。 <p><生活の場（グループホーム、小規模多機能型居宅介護支援事業所など）></p> <ol style="list-style-type: none"> 14) 対象者や家族、ケア提供者との関わりから、対象の生活機能障害を把握する。 15) 対象の生活史、生活様式と対象の持つ地域文化を把握する。 16) 過去に対象に関わってきた（または対象に関わりたいと思っている）インフォーマル・サポート（家族・親族、友人・知人・隣人等）と活用可能なフォーマル・サービス（専門職者等）の実際を学び、社会システムと高齢者のつながりとの関係を理解する。 17) 生活機能障害を抱えながらの暮らしを支える協働連携について考察する。 							佐久川 田 場 山 口 他	
テキスト	老年看護学概論，南江堂，2011． 老年看護学技術，南江堂，2011．								

参考文献	別途指示する。
他科目との 関連	老年保健看護Ⅰ、老年保健看護実習Ⅰ、老年保健看護Ⅱ、老年保健看護演習の既習科目を前提とし、広域・基盤看護科目である精神保健看護や地域保健看護の既習科目を踏まえ、認知症をもつ高齢者の生活の場にあわせた課題解決の実際を学ぶ。
成績評価の 方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に準ずる。
学習相談・ 助言体制	実習中は毎日開始前と終了時にカンファレンスを実施し、学びの内容や互いの課題を共有し、教員、学生とで解決に取り組む。
授業改善の 特記事項	実習中は実習のてびき、老年保健看護Ⅰ・Ⅱの講義資料を携帯し、理論と実践を行き来できるように促す。
備考	実習施設：病院、介護療養型医療施設、介護老人保健施設、グループホーム、小規模多機能事業所など

科目 コード	33511	授業 科目	助産実践論 (Theory of Midwifery)			担当 教員	○玉城清子		
開講年次	4年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講 義		
選択必修	選 択	時間数	30時間						
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	助産師国家試験受験資格関連科目履修の者に限る							
授業概要	助産業務に関わる実践の科学的根拠を人文・社会・自然科学等の広範な科学の学際的視点から、助産学の基礎概念、助産業務管理の基礎を学習する。								
到達目標	1. 助産の基礎概念が説明できる。 2. 周産期医療における質保証の説明ができる。 3. 助産実践の倫理について具体例を用いて説明できる。 4. お産の歴史と文化について説明できる。 6. 日本および世界の母子保健の動向と課題、周産期医療システムについて説明できる。 7. 周産期医療の質およびリスクマネジメントについて説明できる。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1回	助産師とは				I 2~28	玉 城	講義		
第2回	助産師が行うケアの概念				I 30~85				
第3回	助産実践の倫理				I 88~95				
第4回	女性の健康と人権				I 98~115				
第5・6回	お産の歴史と文化				I 118~159				
第7回	周産期医療における質と安全の保証				II 2~17				
第8回	日本における母子保健の動向と課題				I 162~183				
第9回	日本における周産期医療システム				II 20~63				
第10回	世界の母子保健の動向と課題				I 186~213				
第11回	世界の周産期医療システム				II 66~97				
第12回	助産サービスの質管理				II 100~118				
第13回	助産サービスの質管理の実際				II 120~154				
第14回	助産における助産サービス管理の実際				II 156~169				
第15回	周産期におけるリスクマネジメント				II 172~229				
テキスト	I 山本あい子(責任編集):助産師基礎教育テキスト 助産概論, 日本看護協会出版会, 2013. II 成田伸(責任編集):助産師基礎教育テキスト 周産期における医療の質と安全, 日本看護協会出版会, 2013.								
参考文献	開校時提示								
他科目との 関連	助産業務の基本的知識を修得し、助産実習に臨む。								
成績評価 の方法	クラスへの参加度15%、レポート15%、試験70%								
学習相談・ 助言体制	学生が主体的に自己学習できるよう議論の場を設定し、質問及び疑問に対応する。								
授業改善の 特記事項	主体的に授業に参加できるよう助産実践の場を想定した課題設定等を工夫する。								
備 考	学生は次回使用のテキスト箇所および資料内容を読む。 助産師国家試験受験資格関連科目の希望者は必修。								

科目 コード	33521	授業 科目	基礎助産学 (Fundamentals of Midwifery)			担当 教員	○井上松代 賀数いづみ 西平朋子 橋口幹夫 (非常勤) 源川隆一 (非常勤)		
開講年次	4年次 前期	単位数	3単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講義・演習		
選択必修	選 択	時間数	45時間						
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	助産師国家試験受験資格関連科目履修の者に限る							
授業概要	助産活動を行う基礎として、妊産褥婦および胎児・新生児の形態・機能の生理的・病態変化、異常時の診断・治療を学習する。								
到達目標	1. マタニティサイクルの正常からの逸脱の診断とケアについて説明できる。 2. ハイリスク新生児の病態と診断、ケアについて説明できる。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	妊婦の健康診査：フィジカルアセスメント、NST					1.P.1-66, 2.P.46-59 3.P.77-81, 7.P.158-168	井 上	講義	
第2回	妊婦に行なわれる検査の見方（血液・尿・膣分泌物）					1.P.13-14, 2.P.55-59 3.P.49-70	賀 数	〃	
第3回	超音波診断装置の使い方					1.P.67-82, 3.P.71-76	橋 口	〃	
第4・5回	超音波診査法の実際					3.P.54-58, 6.P.318-344 7.P.132-134	〃	演習	
第6回	出生前診断と遺伝学的検査					3.P.40-43, P.90-91, P.165-168	〃	〃	
第7回	生活習慣が胎児に及ぼす影響(アルコール, 煙草, ドラッグ) 妊娠と薬物					6.P.78-82, P.85-96	西 平	講義	
第8・9回	合併症妊娠Ⅰ(糖尿病合併妊娠, 心疾患合併妊娠, 腎疾患 合併症, 甲状腺合併妊娠, 自己免疫疾患合併妊娠)					6.P.83-87, P.96-100	橋 口	〃	
第10・11回	合併症妊娠Ⅱ(精神疾患合併妊娠, 呼吸器疾患合併妊娠, 妊娠外科疾患合併妊娠, 血液疾患合併妊娠)					6.P.22-58	〃	〃	
第12・13回	妊娠期の異常Ⅰ(悪阻, 流早産, 子宮外[異所性]妊娠, 頸管無 力症, 妊娠中の異常出血, 妊娠高血圧症候群)					6.P.112-145 6.P.147-181	〃	〃	
第14・15回	分娩期の異常Ⅰ(分娩進行の異常, 分娩期の出血)					6.P.116-118, 7.P.316-318	〃	〃	
第16・17回	分娩期の異常Ⅱ(帝王切開, 産科ショック, 骨盤位分娩介助 法)					8.P.92-127	〃	〃	
第18回	分娩誘発法の実際					5.P.6-29, 6.P.184-204	井 上	〃	
第19回	会陰切開・縫合術の実際					1.P.115-130, 5.P.170-210, 6.P.206-272	橋 口	演習	
第20回	産褥期の異常(深部静脈血栓症, 産褥期感染症, 産褥期精神 障害)					4.P.189-200 6.P.131-133	賀 数	講義	
第21・22回	ハイリスク新生児の病態・検査・治療 新生児の神経学的診察法、新生児の異常徴候と疾患、呼吸 循環障害、分娩損傷						源 川	〃	
第23回	新生児蘇生法						源 川	演習	

テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 我部山キヨ子編, 助産師のためのフィジカルイグザミネーション, 医学書院, 2008. 2. 吉沢豊子編, 助産師基礎教育テキスト第2巻女性の健康とケア 日本看護協会出版会, 2013. 3. 森恵美編, 助産師基礎教育テキスト第4巻妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版会, 2013. 4. 町浦美智子編, 助産師基礎教育テキスト第5巻分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会, 2013. 5. 横尾京子編, 助産師基礎教育テキスト第6巻産褥期のケア 新生時期・乳幼児期のケア, 日本看護協会出版会, 2013. 6. 遠藤俊子編, 助産師基礎教育テキスト第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア, 日本看護協会出版会, 2013. 7. 我部山キヨ子編, 臨床助産師必携, 医学書院, 2006. 8. 進純郎, 堀内成子, 正常分娩の助産術 トラブルへの対応と会陰裂傷縫合, 医学書院, 2010. 9. 荒木勤, 最新産科学(正常編), 文弘堂 10. 荒木勤, 最新産科学(異常編), 文弘堂
参考文献	ALOHA note, ゆいノート, 他開講時提示
他科目との関連	臨床で実際に実践されている検査、診断、治療を理解しておくことで、助産診断・技術学および助産実習での基礎知識となる。
成績評価の方法	試験80%、レポート10%、講義への参加度10%
学習相談・助言体制	講義終了時に質問できるよう時間を取る。
授業改善の特記事項	臨床で実践されていることをイメージしやすいように、事例の紹介をする。超音波検査の演習や縫合の演習で技術の基本を理解できるように使用物品や環境を整えている。
備考	<p>事前学習と復習を確実に行うこと。</p> <p>*テキストは最新版を使用します。提示したページは変更の可能性があります。授業内容に該当するテキストのページを探して事前・事後学習しておくこと。</p> <p>助産師国家試験受験資格関連科目の希望者は必修。</p>

科目 コード	33533	授業 科目	助産診断・技術学 (Diagnosis and Practice of Midwifery)			担当 教員	○賀数いづみ 井上松代 西平朋子		
開講年次	4年次 前期	単位数	5単位	科目 分類	専門関連科目		授業 形態	講義・演習	
選択必修	選 択	時間数	90時間						
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	助産師国家試験受験資格関連科目履修の者に限る							
授業概要	妊産褥婦並びに新生児の健康診査と健康診査に基づく助産ケアについて学習する。また、正常な産婦への分娩介助法も習得するとともに、緊急時の対処法についても学習する。さらに、周産期の健康生活の維持増進並びに育児に関する保健指導法も学習する。								
到達目標	1. マタニティサイクルの助産診断と援助について説明できる。 2. 模擬事例を通して正常分娩介助の基本的技術を習得する。 3. 新生児の助産診断と援助について説明できる。 4. ハイリスク妊産褥婦・新生児の看護について説明できる。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1～3回 第4～5回 第6～7回 第8回	妊婦の健康診査、妊婦のセルフケア能力向上への支援 PBL I ①妊娠経過のアセスメントとケア ②安定した妊娠生活の維持と出産準備への支援 妊娠期の保健指導 (発表)				4巻:p 2～83 4巻:p 86～140 4巻:p142～175	井上 " " "	講義 演習 " "		
第9～10回 第11～12回 第13～14回 第15～16回	分娩進行に関わる診断技法 産婦の分娩への適応状態の診断方法 分娩第1期～第3期の産婦のアセスメントと援助 分娩進行とケアの実際 ①:呼吸法・リラックス法 ②:補助動作				5巻:p 2～102 5巻:p104～146 4巻:p194～207	賀数 " " "	講義 " " 演習		
第17～18回 第19～20回 第21～22回 第23回 第24～25回 第26～27回	PBL II ①産婦の入院時アセスメントと援助 ②分娩進行状態のアセスメントと援助 分娩期の助産計画立案:初期計画・分娩予測と援助 " (発表) スタンダードケアプランの作成 分娩介助技術				5巻:p148～188	" " " " 賀数・他	" " 講義・演習 演習 "		
第28～29回 第30回 第31～32回 第33回 第34～35回 第36～37回	正常に経過している褥婦のアセスメントと看護 母乳育児支援 正常に経過している新生児のアセスメントと看護 褥婦及び新生児に関する保健指導案の検討 PBL III ①褥婦への母乳育児支援のためのアセスメントと 援助 PBL IV: 新生児の生理的黄疸				6巻:p 2～134 6巻:p 52～98 6巻:p136～210	西平 " " " "	講義 " 演習 " "		
第38～39回 第40回 第41～42回	ハイリスク妊産婦のヘルスアセスメントと看護 ハイリスク褥婦のヘルスアセスメントと看護 ハイリスク新生児のヘルスアセスメントと看護				5巻:p202～223 7巻:p 2～204 7巻:p206～265 7巻 P306～316	井上 西平 賀数	講義 " "		
第43～44回 第45回	臨床技術チェック (OSCE: 妊婦・産婦・褥婦・新生児) 分娩介助実技試験					全員 "			

テキスト	<p>森恵美/他(責任編集):助産師基礎教育テキスト第4巻,第5巻,第6巻,第7巻日本看護協会出版会 我部山キヨ子:臨床助産師必携,医学書院 北川眞理子他(編集):今日の助産,南江堂 日本助産診断・実践研究会(編著):マタニティ診断ガイドブック,医学書院 BFHI翻訳編集委員会:母乳育児支援ガイドベーシックコース,医学書院 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会(編集監修)産婦人科診療ガイドライン産科編</p>
参考文献	<p>荒木 勤 著:改訂22版 最新産科学 正常編,文光堂 荒木 勤 著:改訂22版 最新産科学 異常編,文光堂</p>
他科目との 関連	<p>モデルを活用し基本的助産技術を習得して助産実習に臨む。</p>
成績評価 の方法	<p>筆記試験(60%) OSCE・分娩介助実技試験(30%)・レポート・クラスへの参加度(10%)</p>
学習相談・ 助言体制	<p>学生が自己学習できるよう実習室及び演習模型を整備する。演習には実習指導教員も参加し、学生の質問及び疑問に丁寧に対応する。</p>
授業改善の 特記事項	<p>学生の理解を助け、主体的に授業に参加できるよう視聴覚教材・モデル等の工夫をする。 実践場面を想定した演習になるよう状況設定等を工夫する。</p>
備考	<p>事前学習と復習を確実に行う。技術練習は積極的に指導助言を得ること。 *テキストは最新版を使用します。提示したページは変更の可能性があります。 助産師国家試験受験資格関連科目履修の者は必修。</p>

科目 コード	33541	授業 科目	ウィメンズ ヘルス サイエンス (Women's Health Science)			担当 教員	○玉城清子 賀数いづみ 井上松代 西平朋子 涌谷 桐子		
開講年次	3年次 後期	単位数	2単位	科目	専門関連科目	授業 形態	講 義		
選択必修	選 択	時間数	30時間	分類					
履修 条件	前提科目	人体の構造と機能、人体の構造と機能演習Ⅰ、人体の構造と機能演習Ⅱ、疾病論Ⅰ、 疾病論Ⅱ、周産期保健看護Ⅰ、周産期保健看護Ⅱ							
	その他	なし							
授業概要	リプロダクティブ ヘルスに焦点をあて、女性のライフサイクル各期に特徴的な疾患並びに 健康の保持増進のための援助技術を学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性のフィジカルアセスメントができる。 2. ライフサイクル各期の女性のケアの特徴が説明できる。 3. 女性特有の身体的心理社会的問題を列挙し、説明できる。 4. 性科学の概念を理解し、セクシャリティについて述べることができる。 								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1～3回	成人女性の身体のしくみ				P. 2-17	涌 谷	講義		
	女性の生理学、女性が発症しやすい疾患				P. 18-43	〃	講義		
	女性のフィジカルアセスメント				P. 46-59	〃	講義		
	不妊に悩む女性のケア				P. 118-135	〃	講義		
第4回	思春期女性のケア				P. 62-73	〃	講義		
第5回	成熟期女性のケア				P. 74-97	賀 数	講義		
第6回	中高年女性のケア				P. 98-116	賀 数	講義		
第7回	ドメスティック バイオレンスに悩む女性のケア				P. 136-151	井 上	講義		
第8回	月経障害で悩む女性への支援				P. 152-170	涌 谷	講義		
第9・10回	性科学				P. 172-213	玉 城	講義		
第11回	性感染症とヘルスプロモーション				P. 215-239	西 平	講義		
第12・13回	セクシュアルヘルスとリスク回避行動				P. 242-275	賀 数	講義		
第14・15回	性教育				P. 276-301	井 上	講義・演習		

テキスト	吉沢豊予子（責任編集）：助産師基礎教育テキスト第2巻 女性の健康とケア，日本看護協会出版会，2009.
参考文献	周産期保健看護Ⅰ、疾病論Ⅰ、疾病論Ⅱ、周産期保健看護Ⅱで使用したテキスト及び参考文献
他科目との 関連	周産期保健看護Ⅰ、疾病論Ⅰと関連する。 <u>助産師国家試験受験資格関連科目の希望者は必修。</u>
成績評価 の方法	レポート30点、試験70点
学習相談・ 助言体制	毎回の講義終了後に質問を受ける時間をもうける。 Office Hourに疑問などの相談を受ける。
授業改善の 特記事項	学生の理解が深められるよう課題・事例（場面）設定の工夫、視聴覚教材・模型等の活用を行う。また学生が主体的に授業に参加できるようディスカッションを行いながら講義を行う。
備考	学生は次回使用のテキスト箇所および資料内容を読み、事前学習をして望むこと。 テキストは最新版を使用する。 提示した頁数は変更の可能性がある。

科目 コード	33554	授業 科目	助産実習 (Midwifery Practicum)			担当 教員	○賀数いづみ 井上松代 西平朋子	
開講年次	4年次 前期	単位数	8単位	科目	専門関連科目	授業 形態	実 習	
選択必修	選 択	時間数	360時間	分類				
履修 条件	前提科目	ウィメンズヘルスサイエンス、助産実践論、基礎助産学、助産診断・技術学						
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を終了していることも条件として追加される。 助産師国家試験受験資格関連科目履修の者に限る。						
授業概要	周産期における母児管理を学び母子保健の専門家としての実践能力を身につける。正常経過にある産婦が主体的に出産に取り組めるよう助産を展開する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期にある人々やその家族の意思決定を尊重し、対象者が主体的役割がとれるよう支援できる。 2. 妊産褥婦および新生児の助産診断に基づいて助産過程の展開ができる。 3. 正常分娩の介助ができる。 4. 産婦・褥婦・新生児とその家族が親子関係・家族関係を確立するために必要な看護について説明できる。 5. ハイリスク新生児に必要な基本的看護が実践できる。 6. 母子保健医療福祉等の関連職種間の連携・調整について、助産師の役割を説明できる。 7. 助産学生として実践したことを振り返り、自己の学習課題を明確にすることができる。 							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員	
8週間	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 継続事例として初産婦 1 例を妊娠中から受け持ち、妊娠・分娩・産褥（入院中から産褥 1 か月）の健康診査、保健指導、分娩介助、新生児の健康診査、保健指導を行う。 2. 分娩目的で入院した産婦の分娩介助および産後の母子ケアを行う。 3. 異常分娩（吸引・鉗子分娩）の見学または部分的介助、帝王切開術の見学、ハイリスク新生児の看護を学ぶ。 4. 指導助産師のもと児受けを行い、出生直後の新生児の看護を学ぶ。 5. 産科棟および助産所における管理と助産業務の実際を学ぶ。 <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前に実習科目担当教員及び施設職員からオリエンテーションを受ける。 2. 初産婦 1 例を継続事例（妊娠期～1 か月健診まで）として受け持ち、教員の指導のもと、妊婦健診時の健康診査・保健指導、分娩介助、産後入院中の母子ケアを行う。退院後は、家庭訪問（退院後 1 週間以内）、1 か月健康診査および必要な保健指導を行う。 3. 分娩介助を 10 例（継続事例 1 例を含む）行う。 4. 指導助産師のもと児受けを 2 例以上行う。 5. 異常分娩や帝王切開術の見学実習を行う。 6. NICU で 1 事例を 2 日間受け持ち、ケアを行う。 7. 継続事例の記録 1 例、一般事例の記録 9 例、帝王切開見学、NICU 実習の記録は所定の記録用紙にまとめ、提出する。 8. 産科病棟師長に同行または説明から、助産が行われる場の管理及び助産業務について見学実習を行う 9. 助産所の管理について見学実習を行う。 10. 事例検討会：実習中に受け持った 10 例の中から 1 例を選択し、焦点を決めケア過程の分析を行い、発表及び検討会を行う。 						賀 数 井 上 西 平 他	
テキスト	助産実習の手引、日本助産診断実践研究会編著：マタニティ診断ガイドブック, 医学書院							

参考文献	山本あい子他 編集 助産師基礎教育テキスト1～7巻 日本看護協会出版会 荒木勤 改訂版最新産科学正常編（改訂第22版）/異常編（改訂第22版）文光堂 北川眞理子編 今日の助産 南江堂 「母乳育児成功のための10ヵ条」の実践BFHI翻訳編集委員会：UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイドベーシックコース 医学書院 涌谷桐子：ペリネイタルケア 2009年夏季増刊母乳育児支援ブック他、講義・演習で使用したテキスト
他科目との関連	周産期保健看護Ⅰ、周産期保健看護Ⅱ、疾病論Ⅰ・疾病論Ⅱ、周産期保健実習Ⅰ、周産期保健実習Ⅱ及び助産関連科目を復習して実習に臨むこと。
成績評価の方法	出席状況、実習態度、カンファレンスへの参加状況、実習記録、事例検討会、実習施設の指導責任者の情報を参考に、実習科目担当者が総合的に評価する（知識・技術面60%、態度40%）。詳細は、手引きの助産実習評価票（中間評価・最終評価）参照。
学習相談・助言体制	指導教員や臨床指導者への相談および指導助言を受けることができるよう、実習指導の体制を整える。
授業改善の特記事項	実習前および実習中に集中的に基本的看護技術の練習が可能である。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護技術及び妊産褥婦・新生児に必要な看護技術をモデル人形で十分練習して実習に臨む。妊産褥婦に必要な保健指導教材を実習に活用できるよう準備して実習に臨む。 ・事前学習として、ALOHAノート、ゆいノートを復習しておくこと。 ・助産師国家試験受験資格関連科目履修者は必修。